



2024年10月29日

日本鉄道労働組合連合会

2024連合ジェンダー平等推進中央集会

男女平等参画・ジェンダー平等で 持続可能な社会へ！



連合は10月25日、東京都「よみうりホール」において「2024連合ジェンダー平等推進中央集会」を開催し、現地には704名（女性363名・男性318名含む）、WEBでは699名が参画した。JR連合からは現地にて12名が参画した。

冒頭、挨拶に立った連合の芳野友子会長は、この間の連合「ジェンダー平等推進計画・フェーズ1」の進捗や、能登半島地震被災地における性被害対策として緊急避妊ピルを届ける取り組み、世界の潮流と日本の位置づけ（選択的夫婦別姓制度導入が未実現等）などに触れつつ、強い課題認識を示した。そして、まもなくスタートを切る「ジェンダー平等推進計画・フェーズ2」では組織のトップの強いリーダーシップを求めるとともに、2025春季生活闘争で継続と変化を創り出すこと、真ただ中の衆院選でも働く者の声を反映すること、そして本集会を踏まえ意識と行動を変えていくことを強く要請した。



～男女比の歪みは結論の歪みを生じさせる～

多様性は生産性を高める！個人差は必ず性差を超える！

集会の前半では、連合本部からジェンダー平等推進計画についての基調提起があり、その後、東京大学の瀬地山角教授から「ジェンダー平等で持続可能な社会を」と題する基調講演があった。瀬地山教授は、様々な社会矛盾と事例を紹介し、男女比の歪みや性別役割分担意識が社会の持続性にかかる問題であると指摘。「女性はそもそも『障害物競走』状態である」とし「モレレンジャー状態（1人）にしないことが大切」

「多様性は生産性を高める！」ことなどを提起。

後半は瀬地山教授と芳野会長に加え、連合総研主幹研究員の中村天江氏をパネリストに交えてのパネルディスカッションが行われ、中村氏からは



「労働組合の『未来』を創る」の紹介、課題認識や必要な仕組み、地域における連帯と横断的な労働組合の取り組みの必要性等が提起された。瀬地山教授は「組合員の多様な声を拾い反映していくこと」、芳野会長は「世界の潮流は女性参画率最低40%であり、乗り遅れずに変革をしていくこと」の重要性を強く訴えた。最後は集会アピールを確認し、連合本部、構成組織、地方連合会が一丸となった取り組みを展開していくことを確認した。